

人のぬくもりと
ふれあいが奏でる躍動のまち
丹波高原文化の郷●京丹波

広報 京丹波

KYOTAMBA

No.66
4月号

2011年4月14日発行



旅立ちのとき
ずっとこの日を
忘れない

特集1

瑞穂小学校が開校

特集2

予算



教育委員長に校旗を返還する森校長(三ノ宮小)



記念碑の除幕とともに行われた記念植樹(明俊小)



多くの地域住民が見守る中で行われた記念碑の除幕(明俊小)



閉校に寄せる言葉を述べる校区代表の西村明男さん(三ノ宮小)



在校当時の思い出などを語る卒業生や元教諭ら(質美小)



閉校への思いを込めた全校児童による合奏(明俊小)



地域住民への感謝の気持ちを込めて、勇壮な太鼓を響かせる児童(質美小)



式辞を述べる寺尾町長(桧山小)



思い出を交えて別れの言葉を述べる児童(桧山小)

長い歴史に幕を閉じました。また、閉校となる小学校が刻んできた歴史を後世に伝えるため、それぞれの学校と地域が協力して閉校記念誌と記念碑を制作。記念誌には、沿革や歴史、在校生や校区の人たちが学校に寄せる思いなどを込めた文集などを掲載し、時代の移り変わりなどを記されました。それでは、各学校の歩みなど、インタビューを交えて振り返ってみましょう。

歴史を
締めくくる
「閉校記念式典」

閉校記念式典が、三月二十六日に桧山小と明俊小、三月二十七日に三ノ宮小と質美小で開催されました。それぞれの式典では、寺尾豊爾町長の式辞をはじめ、校区代表者や学校長からの閉校に寄せる言葉、児童代表による別れの言葉が述べられた後、学校長が教育委員長に校旗を返還。最後には参加者全員で校歌を斉唱し、式典を締めくくりました。

続いて、地元主催の閉校記念行事が各校で行われ、児童による合奏や太鼓の発表、学校にゆかりのある方が思い出を語る「思い出トーク」など、それぞれ工夫を凝らした内容で最後の一幕を飾り、百三十年以上にわたる長い歴史に幕を閉じました。

また、閉校となる小学校が刻んできた歴史を後世に伝えるため、それぞれの学校と地域が協力して閉校記念誌と記念碑を制作。記念誌には、沿革や歴史、在校生や校区の人たちが学校に寄せる思いなどを込めた文集などを掲載し、時代の移り変わりなどを記されました。

それでは、各学校の歩みなど、インタビューを交えて振り返ってみましょう。



特集
1

「瑞穂小学校」が開校

四小学校の歴史と伝統を心に刻み

地域のみなさんに愛され、親しまれてきた「桧山小学校」「明俊小学校」「三ノ宮小学校」「質美小学校」の四校が長い歴史に幕を閉じ、子どもたちの未来をはぐくむ新たな学び舎として「瑞穂小学校」が本年四月に開校しました。今回の特集では、各校で開催された「閉校記念式典」をはじめ、それぞれの小学校が刻んできた歴史や思い出を振り返るとともに、瑞穂小学校の特徴などについてお伝えします。



今月の表紙

3月18日、須知幼稚園で行われた修了証書授与式。「ありがとう」と大きな声で修了証書を受け取る卒園児たちの姿に、会場からは温かい拍手が贈られました。(関連記事を28ページに掲載)

NO.66 CONTENTS

- 2 **特集1** 4小学校の歴史と伝統を心に刻み「瑞穂小学校」が開校
- 14 **特集2** 予算
- 20 職員の配置
- 23 暮らしのガイド
 - 平成23年11月請求(10月使用)分から下水道使用料が変わります
- 24 医療等審議会が医療の連携について答申「地域包括ケアシステムの構築が必要」
- 25 Dr's Message いきいき健康術
- 26 **FLASH** KYOTAMBA TOWN NEWS 2011
 - スポーツと文化の発展に貢献
 - スポーツ賞・文化賞表彰式
 - 最新設備を備えた体育館が完成
 - 瑞穂中学校屋内運動場竣工式
 - 派遣団を結成し被災した双葉町を支援
 - 京丹波町派遣団が緊急支援物資を届ける
 - 双葉町を励ます心を込めた取り組み
 - 蒲生野中が東日本大震災への支援活動を実施
 - 夢と希望を胸に学び舎を旅立つ
 - 卒業・卒園式
 - 装い新たに町政情報を発信
 - 町ホームページリニューアル
 - 違いを確かめながら子どもの健康管理を
 - 子育て講演会
 - 広報京丹波が知事賞を受賞
 - 京都府広報賞



学びのフェスタ



みずほ夕涼み大会での
鼓笛パレード



6年生を送る会



運動会



あすなる遠足



松山小学校

百三十五年の歩み

明治九年十月創立で、当時は「道宜校」として約六十人の児童が在籍。校名は、「橋爪尋常小学校」(明治二十年)、「松山尋常小学校」(明治二十二年)、「松山尋常高等小学校」(明治三十四年)、「松山国民学校」(昭和十六年)、「松山村立松山小学校」(昭和二十二年)、「瑞穂村立松山小学校」(昭和二十六年)、「瑞穂町立松山小学校」(昭和三十年)、「京丹波町立松山小学校」(平成十七年)と改称してきました。

歴史をたどる中で印象的なのは、校舎を三回新築し、そのたびに位置を移動してきたこと。創立当初は瑞穂支所付近にあったのが、明治三十七年に隣接する山村開発センター付近へ移転し、昭和五十年に現在の瑞穂小学校の位置に移動しました。

児童数は、昭和二十二年には三百四十人であったのが、その後、昭和三十四年の四百九人をピークに年々減少し、昭和四十年に二百七十八人、昭和五十年に百九十八人、平成二十二年には一学年一学級の九十二人となりました。

思い出に残る 取り組み

鼓笛パレード

昭和五十一年に商工会の要請を受けたことからはじまり、以降は夏祭りの恒例行事として続けられ、昨夏には「校歌」「ワンラフ」「大脱走マーチ」の三曲を演奏しながら商店街を練り歩きました。

6年生を送る会

卒業生の新たな門出を祝う場として取り組まれてきた「6年生を送る会」。保護者が参観する中、在校生が感謝の言葉で祝福し、卒業生がお礼を述べる心温まる一幕とともに、卒業生から五年生に鼓笛の引き継ぎや指揮杖の伝達が行われ、伝統が脈々と受け継がれてきました。

閉校に向けて

児童や保護者だけでなく、校区の老人会「寿会」も参加して行われた「学びフェスタ」。フィナーレでは、母校への思いを込めて参加者全員で「ふるさと」を合唱し、松山小学校の思い出を深く心に刻みました。

あすなる班で大縄跳びなどをして一緒に遊んだり、いろんな活動をしたりして楽しんだことや、運動会で組み立て体操を励まし合いながら取り組めたことが思い出に残っています。

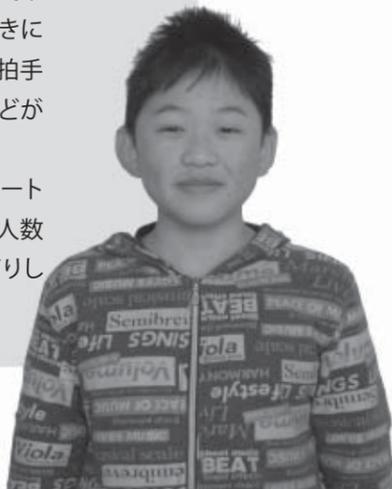
瑞穂小学校では、音楽の合奏など、みんなで協力し合って何かをやり遂げたいと思います。



あひ うえ まな か
湊上愛樺さん
(閉校年度5年生)

伝統として受け継がれてきた鼓笛パレードが上手くてうれしかったことや、行進のときに地域のみなさんから大きな拍手を贈っていただいたことなどが思い出に残っています。

瑞穂小学校ではクラスメートが30人程度になるので、大人数で給食を食べたり、遊んだりしたいと思います。



ひがし たか みつ
東峻光さん
(閉校年度5年生)

インタビュー INTERVIEW

本校は、子どもたちのたくましく伸びやかな育ちを願う校区や同窓のみなさんの温かい思いのもと、素晴らしい歴史と伝統を受け継いできました。

閉校後は、未来に羽ばたこうとする子どもたちが松山小学校で学んだことを誇りとし、いつまでもふるさとに思いを寄せながら、伸び伸びと健やかに育っていくことを願っています。

い じり つね お
井尻常夫 校長(閉校年度校長)





梅田大運動会(鼓笛パレード)



梅田大運動会で風船を放つ参加者



全校遠足



朝の体力づくり



あいさつ運動



明俊小学校

百三十七年の歩み

明治六年九月に「明俊校」として創立。以後校名を「水原尋常小学校」(明治二十年)、「梅田村立明俊尋常小学校」(明治三十二年)、「明俊尋常高等小学校」(明治三十四年)、「明俊国民学校」(昭和十六年)、「梅田村立明俊小学校」(昭和二十二年)、「瑞穂村立明俊小学校」(昭和二十六年)、「瑞穂町立明俊小学校」(昭和三十年)、「京丹波町立明俊小学校」(平成十七年)と改称してきました。

歴史をたどる中で印象的なのは、明治期・大正期・昭和期に計四回校舎を建て替え、その都度、地域をあげて先進的な校舎を建築してきたこと。一方、台風による浸水被害を複数回経験しており、昭和二十八年と五十八年に床上浸水、昭和三十四年に床下浸水の被害を受け、記憶に新しいところでは平成十六年十月の台風二十三号で床上四十センチまで浸水し、校舎内には浸水跡が残っています。

児童数は、昭和二十二年には三百三十八人であったのが、その後、昭和三十三年の三百八十三人をピークに年々減少し、昭和四十年に二百三十九人、昭和五十年に百三十一人、平成二十二年には四十七人となり二年生(七人)と三年生(四人)で複式学級となりました。

思い出に残る 取り組み

梅田大運動会

小学校と地域がそれぞれ実施していた運動会を一緒にし、平成十七年から地域ぐるみで取り組んできた「梅田大運動会」。児童や地域のみなさんが集い、世代を越えた交流が深められてきました。

朝の体力づくり

子どもたちの健やかな成長を支えるために、年間を通じて取り組んできた「朝の体力づくり」。一月は大縄跳び、二月はけん玉、三月―十二月まではマラソンと、楽しみながら取り組める内容を取り入れて基礎体力の向上に努めてきました。

閉校に向けて

学校にいられた方が昔を振り返って懐かしんでもらえるよう、昭和三年度からの卒業写真を廊下に展示するとともに、昨秋の梅田大運動会では、四百個の風船に夢や思い出を書き込んだメッセージカードを付け、校歌を歌いながら大空に放ち、思い出の一幕に華を添えました。

転校した友だちの残っていたウーパールーパーをクラスみんなで一生涯懸命育ててきたことが思い出に残っており、これからも大切にします。

わたしたちが瑞穂小学校で初めての卒業生となるので、クラブや委員会活動、駅伝など、いろんなことに挑戦したいと思います。



しおた あやか
塩田 彩花さん
(閉校年度5年生)

綱引きや全員リレーはチームワークが必要で楽しかったし、昨年はメッセージカードを付けた風船を飛ばしたのがおもしろかったので、運動会が一番の思い出です。

瑞穂小学校でがんばりたいのは修学旅行と運動会。たくさんの友だちといろんなことをするのが楽しみです。



なかなん こうた
中南 皓太さん
(閉校年度5年生)

インタビュー

INTERVIEW

本校は、地域のみなさんの熱意と期待を受け、子どもへの教育こそ地域の発展につながるの大きな信念のもとに一丸となって取り組んでまいりました。

閉校後は、長い歴史と伝統ある明俊小学校最後の児童として、母校とふるさとに誇りを持ち、輝かしい未来に向かって力強く歩んでください。



やまのうち あさふみ
山内 朝文 校長(閉校年度校長)



三ノ宮地区体育大会



1年生歓迎遠足(向かう道中)



人文字の航空写真



稲刈り



校内マラソン大会

1年生歓迎遠足(新入生の紹介)

閉校に向けて

小学校と地域が合同で行う「三ノ宮地区体育大会」において、約四百人が参加して取り組んだ人文字の航空写真。三ノ宮小学校を記憶に残したいの思いついて、児童と教師、地域住民が一丸となって描いた「三ノ宮小」の四文字は、歴史のページを色鮮やかに彩りました。

身近なエコ活動

平成十五年度から五年間取り組んできた環境教育を引き続いて推進するため、節水・節電をはじめ、台所洗剤をできるだけ使わない活動や高屋川を教材にした「エコスクール活動」などを積極的にを行い、学校全体で身近なエコ活動を実践してきました。

思い出に残る取り組み

一年生歓迎遠足
地域が誇る観光名所「質志鐘乳洞」が校区内にあることから、特徴や良さを伝えるために、全校児童が参加して取り組まれてきた「一年生歓迎遠足」。上級生と新入生が手をつないで鍾乳洞まで歩いていき、声をかけながら洞内を見学する中で、学年を超えた友情と気づきが育まれてきました。



三ノ宮小学校

百三十七年の歩み

明治六年に「精業校」として創立。以後、校名を「参倚小学校」(明治九年)、「三ノ宮尋常小学校」(明治二十二年)、「三ノ宮尋常高等小学校」(明治三十五年)、「三ノ宮国民学校」(昭和十六年)、「三ノ宮村立三ノ宮小学校」(昭和二十二年)、「瑞穂村立三ノ宮小学校」(昭和二十六年)、「瑞穂町立三ノ宮小学校」(昭和三十年)、「京丹波町立三ノ宮小学校」(平成十七年)と改称してきました。

歴史をたどる中で印象的なのは、昭和二十四年に児童会組織として「小鳩会」が設立され、校歌以外に「小鳩会の歌」があったこと。昭和四十年代に二作目の歌が作られ、その後、平成元年の卒業生が時代背景を反映した内容で二作目を制作し、集会の始めに全校児童で歌われてきました。

児童数は、昭和二十二年には二百八十二人であったのが、その後、昭和三十三年の三百三十八人をピークに年々減少し、昭和四十年に百七十七人、昭和五十年に九十三人、平成二十二年には四十一人となり二年生(二人)と三年生(六人)で複式学級となりました。

インタビュー INTERVIEW

本校は、三ノ宮地区のみならずから寄せられる熱い思いと支援を受け、教育と文化の拠点として大きな役割を果たしてきました。
閉校後は、これまで培ってきた「やる気」「元氣」「根氣」の精神をもとに、四校の素晴らしい伝統を融合させて新しい伝統を作り上げ、発展していくことを期待しています。

もり ひさ つね
森 久恒 校長(閉校年度校長)



放送委員として給食中にクイズや音楽を流したりするのが楽しかったし、歓迎遠足でみんなと話しをしながら質志鐘乳洞まで歩いていったことが思い出に残っています。

瑞穂小学校では、友だちをたくさん作って、修学旅行でいろんなところと一緒に見て学習したいと思います。

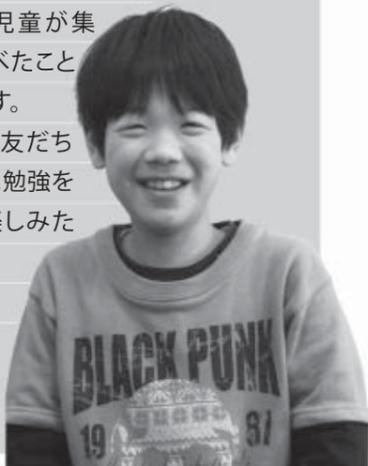
やまもと あかね
山本 朱音さん
(閉校年度5年生)



がんばって練習して鼓笛演奏で鍵盤ハーモニカのパートが弾けたことや、ランチルームで全校児童が集まって楽しく給食を食べたことが思い出に残っています。

瑞穂小学校に行ったら友だちが多くできたら、一緒に勉強をしたり、遊んだりして楽しみたいと思います。

こまき まもる
小牧 衛さん
(閉校年度5年生)





茶つみ



質美地区体育大会



給食風景



長生会親睦の集い



かたばみ音楽発表会



質美小学校

百三十七年の歩み

明治六年六月に「船井郡十二区日進校(旧高原小学校)質美分校」として創立。以後、校名を「質美校」(明治九年)、「富田校分校」(明治十八年)、「富田尋常小学校 質美分校」(明治二十年)、「質美村立質美尋常高等小学校」(大正九年)、「質美国民学校」(昭和十六年)、「質美村立質美小学校」(昭和十二年)、「瑞穂村立質美小学校」(昭和二十六年)、「瑞穂町立質美小学校」(昭和三十年)、「京丹波町立質美小学校」(平成十七年)と改称してきました。歴史をたどる中で印象的なのは、給食の先進的な取り組み。昭和二十三年に脱脂ミルク・味噌汁給食を開始したのを皮切りに、おかず給食(昭和二十七年)、ランチルームでの集団給食(昭和三十五年)などを早くから取り入れ、昭和三十六年には学校給食優良校として文部大臣表彰を受賞しました。児童数は、昭和二十二年には百四十三人であったのが、その後、昭和三十一年の百七十三人をピークに年々減少し、昭和四十年に百八人、昭和五十年に七十一人となり、平成四年から複式学級を開始。平成二十二年は十七人で、一年生と二年生(各一人)、三年生(三人)と四年生(四人)で複式学級となりました。

思い出に残る取り組み

「かたばみ」文集の発行
児童が自分自身のことや身の回りの生活、家族のことなどを見つめて書き記した作文をまとめた「かたばみ」文集。昭和二十九年から閉校年度まで発行し、それぞれの時代をあらわす内容が綴られているため、時代の移り変わりを知ることができる資料として記念誌にも掲載されました。

かたばみ音楽発表会

地域ぐるみの音楽会として、児童による合奏・合唱をはじめ、地元コーラスグループなどが出演して日ごろの練習成果を発表し、和やかな雰囲気の中で交流を深めてきました。なお、閉校年度には、全校児童による勇壮な太鼓演奏を行い、地域の方々の心に響かせました。

閉校に向けて

母校に親しんでもらえるよう、正月に学校を開放し、明治四十五年からの卒業写真と在校生の活動写真を展示。また、小学校と地域が合同で行う「質美地区体育大会」では、プログラム内容を工夫して感謝の気持ちを伝えるとともに、鼓笛演奏に合わせて参加者全員で校歌を合唱し、長年歌い継がれてきたフレーズを胸に刻みました。

少ない人数だったけど、協力して運動会ができたことや、クリーン作戦で地域のごみを拾ってきれいにしたことなど、たくさんの思い出があります。

1年生からずっと同級生に女の子がいなかったので、瑞穂小学校では同級生の女の子といろんな遊びや話ができるのを楽しみにしています。



谷岡 南海さん
(閉校年度5年生)

地域の名人の方に教わりながらお茶摘みをしたことや、人数が少なくてもできる遊びを考えて楽しんだことなどが思い出として残っています。

瑞穂小学校ではたくさん的人数になりますが、みんなで遊んだり、話をしたりして楽しい学校生活を送りたいと思います。



林 伯麻さん
(閉校年度5年生)

インタビュー INTERVIEW

本校は、運動会や学校の美化作業などにPTAだけでなく卒業生や地域のみなさんに参加いただき、「地域の学校」として愛され守られてきました。
閉校後も、児童一人ひとりが、この地域で育ち、この学校で地域のみなさんに温かく見守られながら学んできたことを誇りとして、大きく飛躍することを願っています。

内藤 精一 校長(閉校年度校長)





■校章の選考経過
委員の投票により、応募総数二十四件（丹波地区九件、瑞穂地区十二件、和知地区三件）の中から四作品を選んだ後、再度投票を行い、藤本英子さんが考案したデザインを校章に決定しました。

**地域への思いが
込められた
「校章」と「校歌」**

校名と同様に、地域のみなさんの思いを反映するため「校章」と「校歌」はそれぞれ公募し、瑞穂地区統合小学校準備委員会委員（以下「委員」）による選考を経て決定しました。

なお、選考経過は次のとおり。

■校歌の選考経過

委員の投票により、応募総数十六件（丹波地区二件、瑞穂地区十一件、和知地区二件、町外一件）の中から三作品を選んだ後、再度投票を行い、吉田美好さんが考案した歌詞を校歌に決定しました。

なお、作曲と補作は、府内の小学校で数多くの校歌を手がけている地元見識者の船越修さん（高岡）に依頼しました。

瑞穂小学校 校歌

作詞 吉田美好
作曲・補作 船越修

- 一、こだかい丘に つつまれた
緑豊かな ふる里の
なかよし きみと わたしたち
みんな明るく すこやかに
育つ みんなの 瑞穂校
- 二、そよ風ふいて さわやかな
かおりもたかい 山百合の
青葉の影に 美しく
学びの庭に 咲きにおう
明るい みんなの 瑞穂校
- 三、流れも清く 高屋川
落ち葉ふみしめ 通うみち
雨や風にも くじけずに
希望めざして 伸びていく
輝く みんなの 瑞穂校

瑞穂小学校

校名をはじめ、校章や校歌、校訓などに込められた多くの人々の思い。地域とともに歩んできた四校の歴史を引き継ぎ、瑞穂小学校が新たな伝統と歴史を刻み始めました。



瑞穂小学校の概要

児童数は、一年生三十四人、二年生二十三人、三年生三十一人、四年生三十七人、五年生四十五人、六年生三十五人の総数百九十五人。五年生と特別学級が二組、ほか各学年一組の計九学級でスタートしました。

より良い学校を目指し、「安全・安心な学校」「多様な教育の展開が図れる学校」「環境共生・省エネルギー・快適環境を考慮した学校」を基本に、校舎の大規模改修やランチルームとして活用できる多目的ホールの設置、体育館の改築などを行うことで、教育設備の充実に努めています。



新たに設置した多目的ホール

地域と築く新たな歴史

町立小学校の歴史をたどると、児童数の減少などから、平成十二年四月に旧須知小学校と旧高原小学校が統合して「丹波ひかり小学校」が開校し、翌年四月には旧和知第一・第二・第三小学校が統合して「和知小学校」が開校しました。

それぞれの学校は、旧校が築いてきた伝統や文化などを融合させ、そして地域との関わりを深める中で、地域に愛される学校として親しまれ、十年以上

上の歴史を積み重ねています。児童たちの期待と不安、そして地域のみなさんのさまざまな思いのもとに新たな歴史を刻み始めた「瑞穂小学校」。時代が移り変わり、五年先、十年先、子どもたちが瑞穂小学校にどのような思いを寄せるようになるのか。地域が一九となつて、京丹波町の未来を担う子どもたちの健やかな成長を見守り続けることが大切ではないでしょうか。

インタビュー

校章をデザインした 藤本英子さん(大倉)

瑞々しく輝く稲穂をイメージしました。穂先に輝く4つの星は統合した4つの小学校で、頭文字のMは元気に躍動する子どもたちを表しています。

児童のみなさん、瑞穂小学校ではたくさんの友だちと一緒にになるので、今まで以上に楽しい学校生活を送ってください。また、地域のみなさんは母校がなくなって寂しいかもしれませんが、瑞穂小学校を新たな母校として支えていてもらいたいと思います。



校歌を作詞した 吉田美好さん(本庄)

今と昔では子どもを取り巻く環境が変化し、心の豊かさやたくまさが失われてきているように思います。

そんな中、子どもたちが仲間や地域とつながること、生まれ育ったふるさとの自然を大切にしたい気持ちを持つこと、未来に向かって明るくたくましく生きていく力を育むことなどを歌詞で伝えたいと思いました。かわいい小学生のみなさんに歌っていただき、これから先ずっと、この精神が受け継がれていくことを願っています。



【瑞穂小学校校訓】

- 「温故」
…ふるさとへの思いを心に温める。
- 「友愛」
…友人に対する親愛の情。友情。
- 「進徳」
…自分の人格を進歩、向上させる。

校訓は

「温故」「友愛」「進徳」

「郷土への思いを温め、ふるさとを大切にしたい」「より多くの仲間の中で磨き合ってほしい」「人の温かさに触れ、人との違いを大切にしながら、自分の可能性に挑戦していつてほしい」との思いから、学校生活の指針となる校訓を次のとおり定めました。



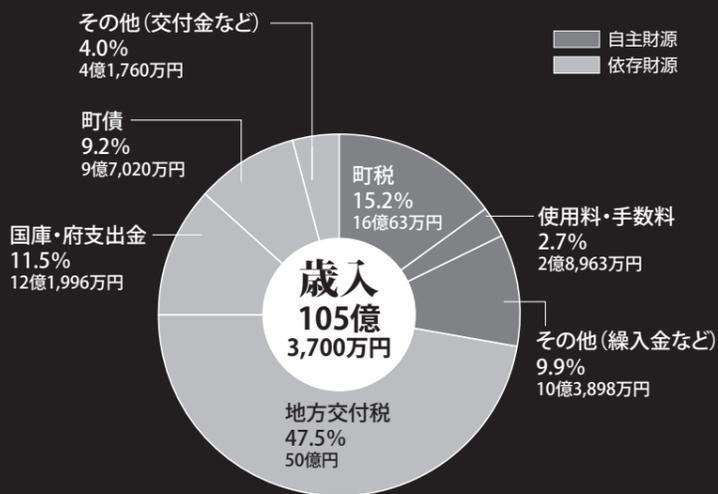
特集② 平成23年度

予算

平成二十三年度当初予算が三月の議会定例会で可決され、成立しました。予算総額は一九〇億八一六万円（一万円未満四捨五入、以下同じ）。内訳は、一般会計が一〇五億三、七〇〇万円、特別会計が八四億七、二六万円（財産区会計除く）です。一般会計は前年度と比べて八億六、八〇〇万円の増額。主な事業としては、児童の地域見守り活動を推進する「ファミリーサポート事業」をはじめ、ひとり暮らし高齢者の安心・安全を目指した「地域包括ケアシステム構築および推進事業」と「高齢者ふれあい推進事業」、須知高校への通学に要する町営バス定期代を助成する「町営バス利用促進事業」、耐久性の向上やバリアフリー化などの改修費用を補助する「住宅改修補助金交付事業」、跡地活用の事業計画立案に向けた「鳥インフルエンザ発生農場跡地活用事業」、本年十一月六日に開催する「国民文化祭推進事業」、全中学校での学校給食実施に向けた「学校給食調理場等整備事業」のほか、自主防災組織育成事業、丹波パーキングエリア基本計画策定事業などを盛り込んでいます。

〔一般会計〕 歳入

歳入には、町税など町が自らの力で収入できるお金（自主財源）と、国や府から交付されたり、割り当てられたりするお金（依存財源）があります。グラフのとおり、自主財源は歳入全体の二七・八％で、残りの七二・二％は国・府支出金（負担・補助・委託金）や町債（借入金）などの依存財源に頼っている状況です。

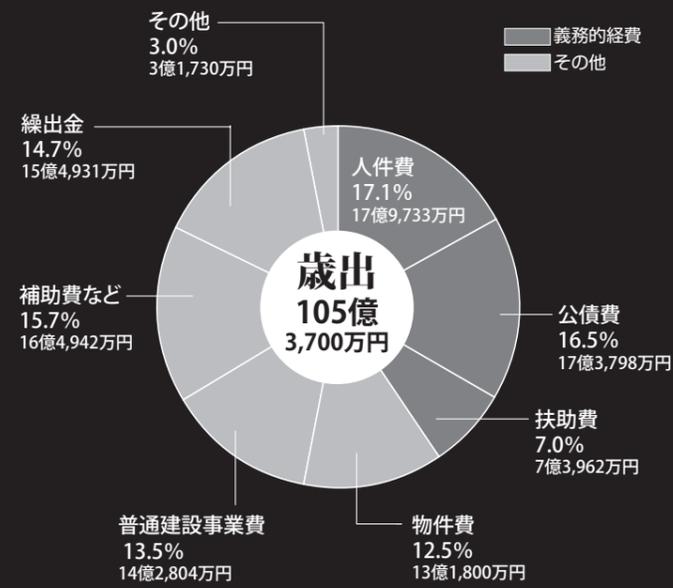


10,537,000,000

〔一般会計〕 歳出

性質別

歳出のうち、人件費や扶助費（医療費助成などの経費）、公債費（町債の返済金）は「義務的経費」として支出が義務づけられています。本町では義務的経費が歳出全体の約四〇・六％（グラフ参照）を占めており、昨年度と比べて三・二ポイント減少したものの依然として町の財政は硬直化した状況にあります。



項目別に見ると、人件費は十七億九、七三三万円を計上し、前年度に比べて五、七九〇万円の増額。引き続いて特別職給与や管理職手当の減額をはじめ、時間外勤務手当の抑制、職員の定員適正化などに努めるとともに、職員の資質向上を目指した職員研修の実施と合わせ、前年度に引き続き人事評価の試行実施を積極的に進めています。公債費については十七億三、七九八万円を計上。公債費負担適正化計画に基づいた対策の実施により実質公債費比率などが改善傾向であることから、今後も引き続き地方債残高の抑制など財政健全化対策に努めます。また、物件費は事務経費の精査に努めましたが、緊急雇用対策など国の施策に係る委託料の増加などにより、前年度に比べて一億二、六六五万円増額となっています。なお、事業内容の詳細は次ページのとおりに。

自主財源の柱である町税は十六億六三三万円を計上。町民総所得の伸びが依然としてマイナス基調にあることや健康志向によるたばこ税の落ち込みなどにより、前年度と比べて二、一八〇万円減額しています。一方、依存財源では、最大の収入源である地方交付税を五〇億円とし、国・府支出金を十二億一、九九六万円、町債を九億七、〇二〇万円見込んでいます。歳入においては、住民生活に密着した行政水準の維持を目指して、特定財源の確保と地方債発行の抑制に留意しながら見込める財源を計上するとともに、財政調整基金（貯金）の活用により、丹波有線撤去や旧瑞穂病院解体、鳥インフルエンザ対策などに必要な経費分を取り崩しています。なお、そのほかの歳入はグラフのとおり見込んでいます。

【一般会計】主な使いみち— 105億円をこう使う

農林水産業費 12億1,006万円

農業委員会の運営など	808万円
農業総務費(職員の給与など)	6,371万円
中山間地域等直接支払事業	1億1,511万円
水田農業構造改革対策助成事業	2,272万円
農業公社運営補助	1,750万円
農地・水・環境保全向上対策事業	1,048万円
丹波食彩の工房管理運営委託	940万円
瑞穂マスターズ施設管理運営委託	562万円
有害鳥獣対策事業	5,634万円
京丹波「食の郷」創造プロジェクト事業	308万円
その他農業振興に関する経費	3,800万円
鳥インフルエンザ発生農場跡地活用事業	830万円
畜産振興に関する経費	965万円
農地保全事業	1,275万円
下水道事業特別会計繰出金(農業集落排水事業)	2億6,074万円
その他農地保全などに関する経費	963万円
山村開発センターの管理運営	744万円
情報センターの管理運営(職員給与など含む)	3億6,993万円
新山村振興等農林漁業特別対策事業	55万円
ケーブルテレビ拡張整備事業	3,694万円
林業総務費(職員給与など)	2,189万円
公有林整備事業	1,555万円
森林整備地域活動支援事業	1,519万円
森林管理道開設事業(和知地区坂原一西河内)	1,732万円
木のぬくもり活用推進事業	1,021万円
その他林業振興に関する経費	5,816万円
林業センターの管理運営	304万円
内水面漁業振興対策事業	274万円



黒大豆や小豆をはじめ、そば、京野菜、京かんざしなど、本町特産物の生産振興を図り、ブランド力を高める取り組みを推進します。

すこやか子育て医療費助成事業	2,860万円
京都子育て支援医療助成事業	913万円
すこやか子育て祝金事業	800万円
ファミリーサポート事業	300万円
その他子育て支援に関する経費	1,321万円
母子父子家庭医療事業など	1,088万円
子育て支援センター事業	413万円
保育所の運営管理(職員給与など含む)	3億2,470万円

衛生費 14億5,846万円

保健衛生総務費(職員給与など)	9,900万円
母子保健・健康増進事業	1,457万円
特定健康診査等事業	1,622万円
後期高齢者健康診査事業	728万円
その他保健事業に関する経費	4,697万円
予防接種・新型インフルエンザ対策事業	4,177万円
合併浄化槽設置整備事業	586万円
下水道事業特別会計繰出金(浄化槽市町村整備推進事業)	5,700万円
新エネルギー導入促進事業	480万円
その他環境衛生に関する経費	272万円
南丹病院組合負担金	1,999万円
京丹波町病院事業運営補助金	4億7,143万円
国民健康保険(診療所勘定)整理事業	1,552万円
医師確保奨学金・医療等審議会事業など	244万円
保健センター管理事業	1,351万円
ごみ処理対策事業	302万円
船井郡衛生管理組合に関する経費	2億9,585万円
水道事業特別会計繰出金	3億4,052万円

労働費 2,486万円

緊急経済生活支援対策事業など	2,486万円
----------------	---------



生活習慣病やがん予防を重視した特定健診をはじめ、健康相談などの保健事業を実施し、町民のみなさんの健康増進を推進します。写真は、健康相談(豊田集会所)

人権啓発・男女共同参画推進など	294万円
京都地方税機構負担金	1,534万円
税務に関する経費(職員給与など含む)	9,119万円
戸籍住民基本台帳管理に関する経費(職員給与など含む)	3,196万円
選挙管理委員会・選挙啓発事業	65万円
京都府議会議員、農業委員選挙の執行	1,598万円
各種統計調査に関する経費(経済センサスなど)	88万円
監査委員会事業	60万円

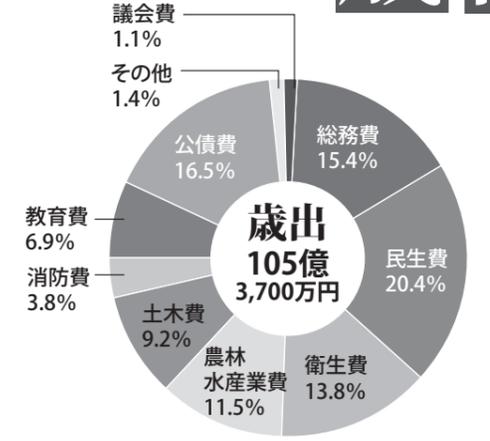
民生費 21億4,582万円

国民健康保険特別会計(事業勘定)繰出金	9,075万円
社会福祉総務に関する経費(在宅介護支援センター運営や職員給与など)	2億8,923万円
和知高齢者コミュニティセンター管理運営委託	70万円
共同作業所入所訓練事業	1,878万円
重度心身障害老人健康管理事業	3,025万円
心身障害者医療事業	5,098万円
自立支援医療給付事業	1,874万円
障害者自立支援事業	2億7,114万円
地域生活支援事業	3,851万円
その他障害者福祉に関する経費	859万円
老人医療事業	3,160万円
シルバー人材センター事業	633万円
介護保険特別会計繰出金	2億8,981万円
在宅高齢者等生活支援事業	2,185万円
府後期高齢者医療広域連合事務事業	2億4,930万円
地域包括ケアシステムの構築など	762万円
介護施設等整備事業	3,165万円
高齢者ふれあい推進事業	450万円
その他老人福祉に関する経費	1,449万円
国民年金事務に関する経費	71万円
子ども手当支給事業	2億6,868万円



町民のみなさんと地域の課題を話し合う懇談の場として「町長と語るつどい」の開催を計画しています。

【一般会計】—目的別— 歳出



議会費 1億1,604万円

議会運営に関する経費(議員報酬や職員給与など含む)	1億1,604万円
---------------------------	-----------

総務費 16億2,548万円

電子入札事業	239万円
一般管理に関する経費(区長会運営や職員研修、職員給与など)	4億5,856万円
広報京丹波(おしらせ版含む)の発行など	524万円
例規集管理事業	617万円
財政・会計・財産管理に関する経費(町有財産・庁舎管理、基金積立事業など)	6億7,113万円
わちふるさと祭助成事業	100万円
その他総合企画に関する経費	454万円
支所の管理に関する経費(支所管理や職員給与など)	1億6,952万円
公平委員会事業	5万円
街灯設置補助金・防犯協会負担金など	136万円
グリーンランドみずほ管理運営事業	2,520万円
駅を守る会事業(和知駅振興事業補助)	190万円
町営バス運行事業特別会計繰出金	5,422万円
町営バス利用促進補助	66万円
交通対策に関する経費(交通安全啓発や交通指導員活動、放置車両対策など)	233万円
自治振興補助金事業	60万円
協働のまちづくり事業	557万円
ホームページ・行政情報システムの運用管理	5,097万円
国際交流推進事業(施設管理含む)	454万円

特別会計当初予算の概要

介護保険事業
事業勘定の歳入のうち、自主財源である保険料は二億六、二七二万円。主な歳出は、保険給付費に十七億七、〇〇九万円、地域支援事業費に四、〇九四万円を計上しています。
また、サービス事業勘定では地域包括支援センターを拠点に介護予防支援事業を推進するための予算を計上し、老健施設サービス勘定では和知診療所二階に設置している老健施設の運営や入所サービスの提供などを行う予算を見込んでいます。

後期高齢者医療
後期高齢者医療制度を運営する京都府後期高齢者医療広域連合の算定に基づく保険料を徴収し、広域連合に納付するための予算を計上しています。
歳入のうち、自主財源である保険料は一億三、〇五八万円。主な歳出は、同広域連合への納付金に一億九、〇九三万円、人間ドック助成事業に二二万円を計上しています。

国民健康保険事業
歳入のうち、自主財源である国民健康保険税は四億一、七二二万円。主な歳出は、保険給付費に十二億八、四四四万円、後期高齢者支援金に二億一、七六一万円、特定健診などの保健事業費に四、四八九万円を計上しています。

国民健康保険事業

土地取得
土地開発公社からの先行取得用地買戻し経費を計上しています。

育英資金給付事業
育英資金の目的に基づいた給付金の支給経費を計上しています。

町営バス運行事業
児童・生徒の通学や町民の交通手段確保のための町営バス運行経費を計上しています。なお、瑞穂小学校開校に伴うスクールバス増発および、松山和知線の新規運行に係る経費も見込んでいます。

下水道事業
歳入のうち、使用料は二億一、七七三万円。主な歳出は、農業集落排水費に二億五、〇三三万円、公共下水道費に一億一、三三二万円、浄化槽市町村整備推進施設費に一億六一六万円を計上しています。

水道事業
歳入のうち、使用料は五億八八八万円。主な歳出は、水道事業に四億四、八九〇万円、簡易水道事業に一億三、六九七万円、公債費の償還に六億六、五〇四万円を計上しています。
なお、統合簡易水道整備事業は、丹波・瑞穂地区で八二%、和知地区で七三%の進捗よく（二十二年度末）を見込んでいます。

水道事業

会計別一覧

会計名	本年度	前年度	比較
一般会計	105億3,700万円	96億6,900万円	8億6,800万円
特別会計・企業会計	84億7,116万円	77億 397万円	7億6,719万円
国民健康保険事業(事業勘定)	18億3,724万円	18億3,833万円	△109万円
国民健康保険事業(和知診療所)	—	2億3,370万円	△2億3,370万円
国民健康保険事業(和知歯科診療所)	—	7,090万円	△7,090万円
老人保健	—	934万円	△934万円
後期高齢者医療	1億9,623万円	1億8,581万円	1,042万円
介護保険事業(事業勘定)	18億3,566万円	17億7,386万円	6,180万円
介護保険事業(サービス事業)	701万円	727万円	△26万円
介護保険事業(老人保健施設サービス)	1億1,310万円	1億2,471万円	△1,161万円
水道事業	16億 150万円	12億 730万円	3億9,420万円
下水道事業	10億9,100万円	11億3,900万円	△4,800万円
町営バス運行事業	8,736万円	7,725万円	1,011万円
土地取得	1億3,126万円	5,994万円	7,132万円
育英資金給付事業	474万円	389万円	85万円
国保京丹波町病院	15億6,606万円	9億7,267万円	5億9,339万円

※国民健康保険事業の和知診療所と和知歯科診療所会計は、本年度から国保京丹波町病院会計に含まれています。

国保京丹波町病院事業
医療機関の運営体制を一本化したことから、京丹波町病院、質美診療所、和知診療所、和知歯科診療所の経費を一括して計上しています。
収益的収入では、入院や外来などの医業収益として、京丹波町病院に六億八、五〇〇万円、和知診療所に一億七、二二二万円、和知歯科診療所に五、〇八九万円を計上。一方、収益的支出における医業費用として、全体で十二億五、五四四万円を計上しています。

【一般会計】主な使いみち

105億円をこう使う

その他消防防災に関する経費……………183万円
消防施設整備事業(車両更新など)……………6,373万円
新自主防災組織育成事業……………100万円
防災・災害対策に関する経費……………673万円

教育費 7億2,276万円

教育委員活動事業……………156万円
学童保育事業……………1,792万円
教育委員会事務局一般経費……………1億4,611万円
(職員給与や学校指導主事設置など)
育英資金給付事業特別会計繰出金……………234万円
小学校の管理に関する経費……………1億2万円
(職員給与など含む)
小学校学習支援教員等配置事業……………1,041万円
その他小学校教育振興に関する経費……………3,734万円
中学校の管理に関する経費(職員給与など)……………7,703万円
中学校教育振興に関する経費……………5,780万円
(中学生国際交流、スクールバス運行など)
幼稚園の管理運営に関する経費……………6,500万円
(職員給与など含む)
国民文化祭推進事業……………553万円
社会教育振興に関する経費……………1,134万円
(社会教育団体育成や成人式開催など)
公民館管理運営、図書館活動など……………3,893万円
文化財保護に関する経費……………386万円
社会体育振興に関する経費……………786万円
(生涯スポーツ振興や体育団体育成など)
体育施設の維持管理に関する経費……………1,447万円
新学校給食調理場等整備事業……………2,002万円
学校給食事業(職員給与など含む)……………1億526万円

※1万円未満を四捨五入しているため、合計金額が合わない場合があります。
※新規事業には新をつけています。

商工費 1億62万円

商工総務費(職員給与など)……………1,353万円
企業誘致対策事業……………323万円
商工業振興に関する経費……………2,970万円
(消費生活行政や融資保証料補給事業など)
質志鐘乳洞公園の管理運営……………1,191万円
特産館「和」、わち山野草の森管理運営委託……………2,500万円
農林業体験公園管理委託……………120万円
その他観光振興に関する経費……………1,605万円

土木費 9億6,967万円

土木総務費(職員給与など含む)……………8,472万円
道路台帳整備事業……………200万円
交通安全施設設置事業……………510万円
道路橋りょうの維持管理など……………3,728万円
新丹波パーキングエリア基本計画策定調査……………2,270万円
道路新設改良事業……………2億9,340万円
河川維持管理・改良事業……………2,059万円
畑川ダム建設関連事業……………1億5,553万円
都市・国土利用計画に関する経費……………29万円
都市公園整備(須知)などに関する経費……………5,411万円
下水道事業特別会計繰出金……………2億5,995万円
(公共下水道事業)
町営住宅維持管理事業……………1,253万円
木造住宅耐震診断・改修事業……………148万円
新住宅改修補助金交付事業……………2,000万円

消防費 4億126万円

京都中部広域消防組合負担金……………2億4,225万円
消防団活動運営事業……………7,373万円
消防施設の維持管理……………1,199万円



今秋に京都府で開催される「国民文化祭」。本町では「魅せる・人形芝居フェスティバル〜伝えよう人形浄瑠璃のころ〜」を11月6日に開催します。写真は、プレ事業の様子



安全な道路環境を目指して、町道の新設や改良工事を順次進めています。写真は、本年度に改良工事を計画している町道院内中央線(院内地内)

畑川浄水場

京丹波町下山クラベシ41番地

水道課 ☎83－9105
【課長】木南哲也
【課長補佐】増谷隆男・山内和浩
【上水道係長(庶務担当)】(山内和浩)
【上水道係長(事業担当)】宇野浩史
【下水道係長(庶務担当)】岩崎勝也
【下水道係長(事業担当)】八木敏和

坂本 優・梅原千里・松下由美・
竹村 洋・原田結城・吉田和晃・
軽尾圭造・森田 亮

瑞穂支所

京丹波町橋爪桧山49番地

瑞穂支所 代表☎86－0150
【支所長】山森英二
【支所長補佐】上西睦美
【主任】谷口玲子・田中晋雄

松谷洋二・西村明美・
小松聖人(地域支援担当)・
西山宏明・岡本 淳(地域支援担当)

教育委員会社会教育課瑞穂分室
☎86－1150
【主任】山崎哲夫

和知支所

京丹波町本庄ウエ16番地

和知支所 代表☎84－0200
【支所長】藤田 真
【支所長補佐】山根美智代
【主任】片山利枝・
堀 友輔(地域支援担当)・
野間 隆

梅原昇治・長谷川 真・片山晴子・
山下 稔(地域支援担当)・山西博美

保健福祉課和知地域保健福祉室
☎84－0049
【室長】谷口いづみ

水間和美

国保京丹波町病院

京丹波町和田大下28番地

医療政策課 ☎86－0220
【課長】藤田正則
【課長補佐】中川 豊
【医療係長】(中川 豊)

正田智久

国保京丹波町病院 ☎86－0220
【院長】佐藤秀一郎
【副院長】垣田秀治・前田武昌
【事務長】(藤田正則)
【看護師長】石田由美子
【診療部長】(垣田秀治)
【外科部長】(前田武昌)
【事務長補佐】(中川 豊)
【事務主任】吉田敦美・光枝三千代
【事務員】原澤美和

【看護主任(副師長)】平田千春・
林 真紀
【看護主任】大西正美
【看護師】
細見友子・竹内和代・上田ひとみ・
上田武美・谷掛郁代・伏原幸子・
山田加奈恵・中村育美・田路利恵・
西山由里・谷口紀久恵・田中真由美・
野村厚子・白波瀬小百合・小川和代・
北村友美・片山比佐子・竹内美弥・
新宮さちよ・村上永里子・
稲元左希子(新規採用)

【放射線技師】山内敏行
【薬剤師】松村陽子・熊谷 明
【理学療法士】井爪直美・
伊藤正幸(新規採用)
【管理栄養士】藤ノ井公代

【放線技師】山内敏行
【薬剤師】松村陽子・熊谷 明
【理学療法士】井爪直美・
伊藤正幸(新規採用)
【管理栄養士】藤ノ井公代

【放射線技師】山内敏行
【薬剤師】松村陽子・熊谷 明
【理学療法士】井爪直美・
伊藤正幸(新規採用)
【管理栄養士】藤ノ井公代

健康管理センター

京丹波町須知鍋倉1番地1

子育て支援課 ☎82－1394
【課長】山田由美子
【課長補佐】塩田 誠
【支援係長】石田美穂

【作業療法士】石原詩子

保健福祉課丹波地域保健福祉室
☎82－1800
【室長】(大槻澄子)

金江美和・友金輝幸

中央公民館

京丹波町蒲生野口38番地

教育委員会社会教育課丹波分室
☎82－0988

西田明範

瑞穂保健福祉センター

京丹波町和田田中6番地1

保健福祉課 ☎86－1800
【課長】堂本光浩
【主幹】大槻澄子
【課長補佐】山鳥 強・古谷千津子・
谷口 誠・竹内 健・
井上祐子

【健康推進係長】上原美智子
【健康推進係主任】永海貴子・藤田むつみ・
島田恵子

【福祉係長】(竹内 健)
【介護保険係長】西野菜保子
【介護保険係主任】高屋敦彦
【包括支援センター主任】(井上祐子)

野々口慶司・出野文隆・村山奈央・
小池由加里・山森要子・片山 哲・
桐村杏菜(新規採用)

【栄養士】上林小百合

【保健師】
堀 道枝・西村美智子・保田智子・
中川早苗・保ヶ部直子・蓮見純子

京丹波町情報センター

京丹波町和田田中15番地1

企画政策課情報推進室
☎88－5000

【室長】藤井雅文
【主任】原澤 恒

田畑昭彦・北村和正・西村公貴・
山内美幸・伴田裕章

産業振興課 ☎82－3808
【課長】久木寿一
【課長補佐】今西政治・栗林英治
【農林振興係長】橋本賢二
【農林振興係主任】村田弘之
【農林事業係長】大西弘一
【農林事業係主任】井上晴之
【商工観光係長】上林太志
【企業立地推進係長】(上林太志)

田尻 穂・西山直人・小原直也・
下村邦喜・太田周人・
中澤紘士(新規採用)

■農業委員会事務局
【事務局長】(久木寿一)
【事務局長補佐】(今西政治)
【主任】山本桂市

(中澤紘士)

土木建築課 ☎82－3806
【課長】十倉隆英
【主幹】田中博典
【課長補佐】榎川 諭・保田志信
【管理係長】(榎川 諭)
【管理係主任】山内智美
【土木係長】(保田志信)
【建築係長】十倉克也

荻野雅則・山下 徹・秋山卓弘・
長谷川 央(新規採用)・
大秦 学(京都府派遣)

■開発プロジェクト推進室
【室長】川寫勇人
【室長補佐】原田 聡(京都府)

中村昭夫

会計室 ☎82－3804
【会計管理者】岡本佐登美
【室長】中井伸幸
【出納係長】樹山敬子

坂本美佳子

職員の配置

Kyotamba Town

4月1日付け、人事異動を行い、職員の配置は次のとおりになりました。(嘱託職員など除く、敬称略)
なお、土木建築課内に「開発プロジェクト推進室」を新設したことをはじめ、町立医療機関の運営一本化やみずほ保育所開所などに伴う組織改編を行うとともに、消費生活に関する事務は住民課の所管としました。

企画政策課 ☎82－3801
【課長】中尾達也
【主幹】藤田義幸
【企画係長】山田泰行
【広報広聴係長】(山田泰行)
【交通対策係長】小谷誠之

山内圭司・井口理恵・片山加奈

■地域支援室
【室長】(藤田義幸)
【地域支援係長】片山 健

■バス事業所
三好 稔

税務課 ☎82－3802
【課長】一谷 寛
【主幹】福井彰一郎
【課長補佐】豊嶋浩史・
高畑利彦(地方税機構派遣)
【賦課係長】(豊嶋浩史)
【徴収係長】小山 潤
【主任】堀内浩二(地方税機構派遣)

伊藤康彦・島 文子・川勝千裕・
細野江梨子(地方税機構派遣)

住民課 ☎82－3803
【課長】下伊豆かおり
【主幹】稲葉 出
【課長補佐】松下すみ子・西山民子・
木下浩昭・岡本明美
【戸籍住民係長】(松下すみ子)
【保険年金係長】四方晴美
【環境推進係長】(木下浩昭)
【人権推進係長】(西山民子)

藤井知宝・四方妃佐子・並河直樹・
豊嶋裕美・吉田 聡・小崎亮太・
江本宗玄・
大西孝治(後期高齢者連合派遣)

京丹波町役場本庁

京丹波町蒲生八ツ谷62番地 6
代表☎82－0200

議会議務局 ☎82－3805
【事務局長】長澤 誠
【庶務係長】上林潤子

上西貴幸

【参事】岩崎弘一(総務福祉担当)
野間広和(事業担当)

総務課 ☎82－3800
【課長】伴田邦雄
【課長補佐】岡本英子・松山征義・
大西義弘
【総務係長】保田利和
【人事秘書係長】原澤 洋
【人事秘書係主任】太田創一
【財政係長】(松山征義)
【消防防災係長】中野竜二

堀 孝子・石田武史・上原康宏・
山内明宏・久保元真一・奥戸志帆・
高見謙佑(新規採用)・
山口知哉(京都府派遣)

監理課 ☎82－3811
【課長】山田洋之
【総務契約係長】(山田洋之)
【指導検査係長】山内敏史

小林篤史

平成23年11月請求(10月使用)分から 下水道使用料が変わります

(特定環境保全公共下水道使用料、農業集落排水使用料、林業集落排水使用料、簡易排水使用料、浄化槽使用料*)

*浄化槽使用料：町が管理している浄化槽が対象。個人で保守点検業者と契約されている浄化槽は対象ではありません。

下水道使用料は現在、排水量の多少にかかわらず、定額制・人頭制で算定しています。今回の改定では、公共下水道、集落排水、簡易排水、浄化槽といった汚水の処理形態の違いはありますが、同じ汚水排水処理として捉え、受益と負担の公平性および町の一体性の観点から料金体系を統一します。

詳細は、今月に全戸配布している資料をご確認ください。



「定額制・人頭制」から「従量制」へ統一します

従量制は、下水道施設へ流れる排水量に応じて料金を決定する方法です。排水量が多くなるほど1㎡当たりの単価が高くなります。(1使用月当たり)

	排水量	使用料
基本料金	10㎡まで	2,940円
超過料金①	11㎡~20㎡	105円
超過料金②	21㎡~30㎡	126円
超過料金③	31㎡~40㎡	147円
超過料金④	41㎡~60㎡	168円
超過料金⑤	61㎡以上	189円

*超過料金の使用料は1㎡当たりの単価です。

経過措置期間を設けます

使用料の増額による使用者負担を軽減するため、経過措置期間を設けます。なお、使用料が減額となる方も段階的に減額となります。

減免制度を設けます

上水道料金の減免制度に準じ、次のとおり減免制度を設けます。

- 満75歳以上のひとり暮らしで要件に該当する方は、基本使用料から525円(税込)を減免します。
- 漏水により上水道料金が軽減された方は、下水道使用料も軽減します。

使用料改定スケジュール

時期	内容
5月上旬	使用されている水などについて申告していただきます。(すべての使用者に申告書を配布しますので、期限内に提出してください)
9月下旬	排水量をどのように決定するかを個別にお知らせします。
11月17日	使用料の納付書を送付します。(納付書で納付されている方)
11月30日	使用料を口座から引き落としします。(口座振替で納付されている方)

問い合わせ/水道課 ☎83-9105

須知幼稚園 ☎82-0151

【園長】杉尾富美子
【教頭】西村喜代美
【主任】浦井美紀
【教諭など】
湊 玲奈・小林和子・山口利一・
小森由佳梨・新庄美和子・
越浦宏美(養護教諭)

小中学校・給食センター

【丹波ひかり小学校】村山美智子
【蒲生野中学校】和田 隆
【瑞穂中学校】北井邦江

【丹波給食センター】

小林富美子
【和知給食センター】
水口さき子

退職職員

(3月31日付、敬称略。()は前職)

中村泰也
(国保京丹波町和知診療所長兼
介護療養型老人保健施設長)
吉田 正
(住民課主査)
田中美智子
(瑞穂支所主査)
長谷川博文
(教育委員会事務局学校教育課主査)
軽尾早苗
(上豊田保育所主任)
村上康司
(国保京丹波町和知診療所薬剤師兼
介護療養型老人保健施設薬剤師)
山田知恵子
(三ノ宮小学校用務員)
森下 満
(桧山小学校用務員)
山内和子
(国保京丹波町和知診療所看護師兼
介護療養型老人保健施設看護師)
徳長奈穂
(わちエンジェル保育士)

和知歯科診療所

京丹波町本庄今福13番地

和知歯科診療所 ☎84-1154

【所長】坂下敦宏
【事務長】(野村雅浩)
【事務長補佐】(山田和志)
【医師】舟木 健
【主任】山口秀子
【歯科衛生士】片山昭子
【歯科技工士】堀 太

学校・保育園など

上豊田保育所 ☎82-2056

【所長】北村世津子
【所長補佐】谷 久美子
【主任】尾池奈緒美
【保育士など】
森 こず枝・加藤亜希子・大秦優子・
岸本沙奈美・中西靖浩・國領千紗子・
山崎愛紀(養護教諭)

■下山分園 ☎83-0004

【園長】(北村世津子)
【主任】湊 直美
【保育士】
野口加代里・細見ルミ

みずほ保育所 ☎86-0574

【所長】津田知美
【所長補佐】東 直美
【主任】北村恵里子
【保育士】
山内里佳子・小室由紀・谷口絵理・
今川奈未・矢田彰子・谷 麻美

わちエンジェル ☎84-1920

【所長】中尾裕之
【所長補佐】真野照美
【主任】山内幸子
【保育士】
越川憲子・下村秀美・久保元恵子・
佐々谷美穂

教育委員会

京丹波町本庄ウエ16番地(和知支所内)

教育委員会 ☎84-0028

【次長(参事)】谷 俊明

■学校教育課

【課長】(谷 俊明)
【主幹】松村康弘
【総務係長】徳島康善
【学校教育係長】芦谷真由美
【学校教育係主任】堀 敬之

山内善史・山本美子

■社会教育課

【課長】山内善博
(兼B&G海洋センター所長)
【課長補佐】永武幸子
【社会教育係長】村山英紀
【文化財係長】山下 泰

山内秀文・川野雅夫(新規採用)

和知診療所

京丹波町本庄今福5番地

和知診療所

(介護療養型老人保健施設)

☎84-1112

【所長】(前田武昌)
【施設長】(佐藤秀一郎)
【事務長】野村雅浩
【事務長補佐】山田和志

【事務員】
福本糸み子

【看護主任(副師長)】中村幸子
【看護師】
竹内秀子・川勝里美・大西初美・
大西好美・小寺恵美・貞守京子・
片山亜紀・滝波美由紀(新規採用)

【放射線技師】諫本慶春
【理学療法士】大田有次
【介護支援専門員】安藝俊郎

医療等審議会が福祉と医療の連携について答申 「地域包括ケアシステムの構築が必要」

京丹波町医療等審議会(波瀬孝澄会長、委員10人)が、3月17日に諮問を受けていた「京丹波町における福祉と医療の連携」について寺尾豊爾町長に答申しました。同審議会では、去る12月14日に「京丹波町の医療の確保および町立医療機関のあり方」について答申をされており、今回で諮問したすべての事項の審議を終了しました。

福祉と医療のさらなる連携の必要性

医療、保健、福祉、介護の適正なサービスを提供するため、本町では「地域ケア会議」などを設け、町、社会福祉協議会およびNPO法人などの介護保険事業所関係者らが情報交換を行い情報の共有を図っている。

また、休日や夜間などは、各地域の在宅介護支援センターによる電話対応が行われており、高齢者などへの支援は一定の体制が整備されているが、今後、既存のサービス間のより機能的な連携が求められる。本町においては、今後ますます超高齢化が進行する中で、高齢者世帯の生活などに目配りした地域に根差した支援が求められており、これまで以上に町民のニーズを的確に把握しつつ、各機関相互の情報共有、地域実態に即した組織体制およびインフラ整備などを行い、有機的かつ機能的な連携を強めることが何よりも大切であると考える。

これからの福祉と医療の連携

今後を考える上で重要となるのは、支援を必要とする高齢者や家族などが安心して生活するための福祉と医療の連携であり、地域実態を踏まえた本町独自の「地域包括ケアシステム」の構築が必要であると考える。

「京丹波町地域包括ケアシステム」の構築について

■組織体制の整備

今まで以上に住民が安心して暮らすためには、行政施設や福祉施設、医療機関などに「京丹波町地域包括ケア相談所(仮称)」を設置し、気軽に安心して相談できる身近な窓口を増やすことが必要と考える。これにより、きめ細やかで切れ目のないネットワーク網が構築され、ワンストップが必要なサービス提供へつなげる体制づくりが行えるものと考ええる。

医療分野においては、医療と福祉を結び核となる「地域連携室(仮称)」を設置することにより、病診連携は言うに及ばず、在宅医療、介護および福祉などへ円滑に移行できる体制の整備が図られると考える。

また、本町では、医療、保健、福祉および介護などの機関が一体となった中心ゾーンが旧町単位に形成されている。中でも瑞穂地域は、それぞれの分野の中心的な部署が集約されたゾーンであり、町立医療機関から積極的に医療関係者らが地域に向く環境が整っている。

こうした環境を最大限に活用し、機能させることにより、医療が保健・福祉・介護へより積極的に関わり、町民に顔の見える医療・支援活動を行うことで、「わたしたちの町のわたしたちの病院」という意識が芽生え、結果として「地域包括ケアシステム」の構築につながっていくものと考ええる。

■人材育成

支援体制づくりと併せて重要となるのが、京都府の「地域包括ケアシステム推進プラン」を踏まえた人材育成である。

現在、医療・福祉の各事業所に配置されているスタッフに加え、それぞれが専門分野以外の研修などを受講してスキルアップを行うことにより、医療、福祉分野におけるマンパワーの向上が図られ、円滑な支援体制の構築につながるものと考ええる。

■インフラ整備

近年進歩の著しいICT技術を積極的に活用し、携帯端末を活用した相談窓口の実施、ケーブルテレビ網を活用した健康相談や医療相談の実施などの整備が必要であり、国、府の制度を活用するなどして、前向きに取り組んでいきたい。



寺尾町長に答申書を手渡す波瀬会長(役場町長室・蒲生)

『糖尿病薬と高血圧薬に ついて』

このコーナーは、町立病院・診療所の医師や専門職員がみなさんにお届けする健康情報コーナーです。今回の担当は京丹波町病院の薬剤師 松村陽子さん。糖尿病および高血圧の方が服用する薬の種類や効能についてのお話です。



まつむら 陽子さん(京丹波町病院) 薬剤師

今 回は、多くの患者が服用されている糖尿病薬と高血圧薬について紹介します。

糖尿病薬

▼**ファステック、グルファストなど**
インスリンの分泌を促進し、主に食後の血糖値を改善します。

▼**セイブル、グルコバイなど**
インスリンの分泌作用はなく、主に食後の血糖値を改善します。

▼**グリミクロン、オイグルコン、アマリールなど**
インスリンの分泌を促進し、主に空腹時の血糖値を改善します。

*糖尿病薬には経口薬(飲み薬)とインスリン薬(注射)があります。経口薬のみ紹介しています。

高血圧薬

▼**アムロジウム、アテレルク、ベルジピンなど**
血管を拡張して抹消血管抵抗を減少させることで、血圧を下げます。

▼**ニューロタン、プロプレス、ミカルヂスなど**
抹消血管抵抗と体液量を減少させることで、血圧を下げます。

▼**ラシックス、ナトリックス、フルイトランなど**
腎臓の尿細管に作用して体内のナトリウムと水分を排せつし、尿量を増やすことにより体液量を減少させることで、血圧を下げます。

薬の効果を出し、副作用を防ぐためには、医師に指示された通りの服用時間や薬の量を守って飲み続けることが大切です。勝手に薬をやめたり、飲み忘れたからといってまとめて飲んだりしてはいけません。薬のことを知り、正しく服用してください。

【用語説明】
抹消血管抵抗：手足の血管を流れる血液の通りにくさを表し、動脈硬化が進んで血管の内部が細くなると抹消血管の抵抗は増加する。

京丹波町病院では、毎月第二・第四土曜日の午前中に内科と小児科の診療を行います。☎86-0220

【用語説明】*ICT (Information and Communication Technology) …情報・通信に関連する技術一般の総称

スポーツと文化の発展に貢献

■スポーツ賞・文化賞表彰式

平成二十二年京丹波町スポーツ賞と文化賞の表彰式が三月十七日、山村開発センターみずほで行われました。

スポーツ賞は、長年にわたり地域のスポーツ振興に貢献した人や各種スポーツ大会で優秀な成績を取った個人・団体などが対象。本年度に新設した文化賞は、文化の発展に寄与し顕著な功績をあげた個人・団体などが対象で、受賞されたのは次のみなさん。(敬称略、主な功績のみ)

〔スポーツ賞〕

▼特別栄誉賞

大石康正(院内)／世界ジュニアパワーリフティング大会(男子五十六級)二位など

奥戸知香(西河内)／世界ジュニアパワーリフティング大会(女子六十級)二位など

一谷麻実(口八田)、一谷奈歩(同)／U-18 N T S 女子ホッケー日本代表

一谷 維(口八田)、山下留依(豊田)／高校選抜女子ホッケー日本代表

湯浅優実(蒲生野)、滝波愛友里(井尻)／U-16 中学校選抜女子ホッケー日本代表

▼功労賞

徳島忠弘(新水戸)／竹野ホッケースポーツ少年団の指導者として、競技の普及などに尽力

▼優秀賞

西村紗菜(大朴)／全日本中学生ホッケー選手権大会・優秀選手

稲元 南(和田)／国民体育大会「ホッケー」五位

坂本亜耶(蒲生野)／全国障害者スポーツ大会「百歳、二百歳、四百歳リレ」二位

木戸涼介(豊田)、木戸章吉(豊田)、谷掛洸和(上久保)／府立工業高校として京都府春季高校野球大会・優勝

十倉里帆(稲次)／全国高校総合体育大会「カヤック五百級」六位など

片山湧悟(安栖里)／日本フラットウォーターレーシングジュニア大会「カヤックフオア五百級」三位

西 愛奈(升谷)／全国中学生カヌー大会「二年女子カヤック五百級」三位

堀真由香(本庄)／同・四位

津田麻衣(本庄)／同・五位

金子のぞみ(篠原)／同・六位

梅原佐公(大倉)、片山莉果(本庄)／B & G 杯全国少年少女カヌー大会「女子カヤックペア」二位

安藤和佳(升谷)、片山稚奈(小畑)／B & G 杯全国少年少女カヌー大会「女子カヤックペア」五位

上田大賀(大阪市)／同大会「男子カヤックシングル」五位

野間知里(升谷)／同大会「女子カヤックシングル」六位

京丹波町グラウンド・ゴルフ選抜チーム／府民総体「グラウンド・ゴルフ」優勝

京丹波町ゲートボール女子チーム／府民総体「ゲートボール」準優勝

竹野口／京都ギネス「大縄跳び」二位

口八田／京都ギネス「玉入れ」二位

〔文化賞〕

▼文化功労賞

京丹波町古文書を読む会／旧家保有の古文書解説など、近世歴史解明に寄与

コーラス・ポナミ／三十五周年にわたり活力ある地域づくりを目指した活動を展開

コーラスカナリア／昭和五十八年発足より文化祭への出演や老人ホームへの慰問コンサートなどの活動を展開

福澤昭信(蒲生野)／古文書を読む会を指導し、町内古文書の解説を推進

細尾昌子(坂原)／和知人形浄瑠璃会で最高齢の女性太夫として出演するとともに、会員に語りを指導

植村雅子(富田)／創作粘土サークル・コスモス代表や講師として活躍

平井早苗(上野)／コーラスカナリア発足以来、指導とピアノ演奏を担当

松村勝海(橋爪)／みずほ句歌会を立ち上げ、会長として活躍

輝き賞

安村海渡(富田)／京都こども美術展・京都府知事賞

小森雄飛(実勢)／緑化運動ポスターコンクール・優秀賞

杉本 心(鎌谷中)／同コンクール・京都府教育長賞

平尾萌衣(井尻)／青少年読書感想文府コンクール・京都府学校図書館協議会長賞



スポーツ賞および文化賞を受賞したみなさん(山村開発センターみずほ・大朴)

最新設備を備えた 体育館が完成

■瑞穂中学校屋内運動場竣工式

三月二十二日、耐震化対策として改築工事を進めてきた瑞穂中学校屋内運動場(体育館)の完成を祝い、同校生徒や町内の学校関係者らが出席する中、竣工式が開催されました。

式典では、寺尾豊爾町長が「体育の授業やクラブ活動はもとより、文化的な取り組みにも積極的に活用することで、知・徳・体の形成につなげてください」と式辞。続いて、経過報告や来賓あいさつ、生徒代表による喜びの言葉の後、同校の古杉辰義校長が「本校教育の拠点となる施設として、また生徒がさらに元気で活発な活動をすすめる施設として大切に使用していきます」とお礼の言葉を述べました。

体育館は、建築面積が九六・一九二㎡、工期が平成二十二年八月九日ー平成二十三年三月十八日、総事業費が二億九千六百九十九万円。なお、同校体育館と瑞穂小学校が完成したことで、町立学校施設の耐震化が完了しました。



竣工式で式辞を述べる寺尾町長(瑞穂中学校体育館・和田)

派遣団を結成し被災した双葉町を支援

■京丹波町派遣団が緊急支援物資を届ける

三月十一日の東日本大震災で被災した友好町・福島県双葉町を支援するため、畠中源一副町長を団長に五人の職員で「京丹波町派遣団」を結成し、緊急支援物資を届けました。

派遣団は、三月十五日に本町を出発し、翌十六日に双葉町が役場機能を移した川俣町合宿所に到着。



出発に向けた意気込みを込めてあいさつする畠中副町長(役場前駐車場・蒲生)

現地では、双葉町の井戸川克隆町長に、七トトラックに積み込んだ水の

双葉町を励ます心を込めた取り組み

■蒲生野中が東日本大震災への支援活動を実施

蒲生野中学校の生徒会とPTAの役員が三月二十三日、東日本大震災で被災した友好町・福島県双葉町を支援するため、丹波マーケス前で募金活動などを行いました。

同校では、被災地の方々への募金活動をはじめ、避難生活を余儀なくされている双葉町の中学生が授業を受けられない状況にあることから、励ましのメッセージをカードに書いて贈ることを生徒会役員が提案し、全校生徒で取り組みを



訪れる人たちに募金を呼びかける蒲生野中の生徒(丹波マーケス前・須知)

施。できるだけ多くの町民の方からの励ましの声を届けるために、募金活動と合わせてメッセージカードへ

わたしたちの町

人口	16,529(-69)
男	7,806(-29)
女	8,723(-40)
世帯数	6,428(-11)
4月1日現在/()は前月比	

の参加を呼びかけました。同校生徒会長の長澤慶さんは、「被災された人たちのために何かできないかと考え、募金活動に取り組みすることにしました。集まった募金は被災地の方々に有効に使っていただきたい」と話しました。



トラックから緊急支援物資を降ろす職員たち(川俣町合宿所・福島県川俣町)

や食料、粉ミルク、紙おむつ、使い捨てカイロなどの支援物資を手渡し、十七日には職員が迎えに来る中、本町に帰着しました。

夢と希望を胸に学び舎を旅立つ

■卒業・卒園式

三月十一日、町立中学校の卒業式が各校で行われ、計百四十一人が卒業しました。

瑞穂中学校の卒業式では、卒業生一人ひとりに卒業証書が手渡された後、在校生代表の今西翼さんが「困難が待ち受けているかもしれないが、みなさんが持っている素晴らしい力で乗り越え、夢と希望に満ちあふれる未来へ羽ばたいてください」と送辞を送り、卒業生代表の木南僚太さんと上林



答辞を述べる木南さんと上林さん
(瑞穂中学校・和田)



卒業証書を受け取る卒業生
(和知小学校・本庄)



卒園式で元気いっぱい歌う卒園児
(須知幼稚園・須知)

あかねさんが「瑞穂中学校で最高の思い出を作り、すべてをやり遂げるのができました。新たな決意を胸に巣立ちますが、これからも素晴らしい学校を築いていってください」と答辞を述べました。

三月二十三日には、本年三月に閉校した瑞穂地区四小学校（桧山、明俊、三ノ宮、質美）を含めた町立小学校八校で卒業式が行われ、百四十四人が卒業。また、三月十八日には須知幼稚園で二十四人、三月二十五日には各保育所で計七十五人が卒園しました。

違いを確かめながら 子どもの健康管理を

■子育て講演会

三月二日、子育て講演会が瑞穂保健福祉センターで行われ、子育て中の母親ら約二十人が参加しました。

講演会では、高屋こども診療所の高屋和志院長が「乳幼児期の病気の予防と対応について」と題して講演。高屋院長は、乳幼児期に起こりやすい発熱、せき、下痢、発疹などの症状やケア方法、救急車を呼ぶ必要のある状態などをわかりやすく説明し、「平熱や睡眠時間、食事量など、子どもの普段の状態を確認しておくことが病気の予防につながる。『いつもと違う』と感じたら、何が違うのかを判断して適切な処置を施すとともに、必要に応じて早めに受診するよう心がけてください」とアドバイスしました。



自宅でのケア方法などをわかりやすく説明する高屋院長(瑞穂保健福祉センター・和田)

広報京丹波が知事賞を受賞

■京都府広報賞

このほど、京都府広報賞(京都府広報協議会主催)の一枚写真の部で、「広報京丹波NO56(六月号)」の表紙写真が京都府知事賞を受賞しました。

受賞したのは、竹野小学校の児童が地元農家の山田元(高岡)さんの田んぼで田植え体験している様子を撮影したものの。受賞を励みに、親子みやすく読みやすい紙面づくりを目指してより一層尽力しますので、今後とも取材などへのご協力をお願いします。



受賞した広報紙

装い新たに町政情報を発信

■町ホームページリニューアル

町政情報をよりわかりやすくお伝えするために、京丹波町ホームページをリニューアルしました。多くの方のご利用をお待ちしています。



リニューアルしたホームページ
<http://www.town.kyotamba.kyoto.jp>

編集後記

桧山小、明俊小、三ノ宮小、質美小の閉校と、瑞穂小学校の開校を多くの方の心にとどめていただきたいと思い特集しました。閉校準備で忙しい中、各校長先生をはじめ、ご協力いただいた方々に感謝申し上げますとともに、瑞穂小学校の発展を心より願っています。▶新年度がスタートし、広報担当は引き続き編集子がお世話になることになりました。よりよい広報紙を目指してがんばりますので、これからもよろしくお願いいたします。(K)